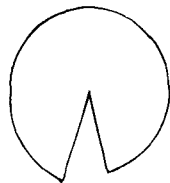


C-45 複曲面構成におけるダーツの形態(第2報) モアレ法による計測
帝塚山学院短大 O 広原享子 加藤美紀 金森悦子 南日朋子 田中道一
帝国女子大 和知孝雄

目的 立体構造に基く被服構成に必要な複曲面を構成するダーツについて、一連の研究を行なった。前報においてこれらのうち、従来行なわれている曲線ダーツと省力化のためのいせ込みを併用した直線ダーツから、構成される曲面を数値的に把握し、両者の検討を行なった。今回はこれらのダーツをガラス・スクリーンを用いた直接撮影によるモアレ縞にて計測し、形態的に観察したので報告する。

方法 いせ込みを併用した直線ダーツは、図のようなものでサンプルの形状はアルキメデスのうずまきの原理によるものである。この時のつまみ角度は三十度で両線の寸法差は0cm, 0.5cm, 1.0cm, 1.5cm, の4段階とし、つまみ中心方向はタテ地、バイヤス地の2方向とした。なお、従来の曲線ダーツも比較するために作成した。



結果 両線の寸法差0cmの場合は、モアレ縞を構成するフリンジがダーツの先端から同心円を描き、円錐形を観察することが出来たが、寸法差がきつくなるにしたがって、モアレ縞の歪が多くなるのが認められた。またタテ地とバイヤス地の場合は、バイヤス地の方がなめらかなフリンジがみられた。